



第552号

# 学校だより

2月号

横浜市立東本郷小学校

令和5年2月1日

ひとにやさしくありがとうのこころで がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子

## 話せる給食へ

学校長 堂腰 康博

お昼の12時を過ぎた頃、校長室ドアの真横に「本日の給食メニュー」のサンプルがおかれます。子どもたちに「今日はこんな給食ですよ」と興味をもってもらうことはもちろんですが、どのお皿に何のおかずを盛り付け、自分はどのくらいの量を食べるのか、を分かるようにするために展示しています。また、給食の時間が楽しみになるようにデザートを付けたり、行事食や季節の献立を取り入れた料理を並べたりして、日本の伝統や世界の食文化等、「食」を学ぶ教材としての役割も果たしています。一方、子どもたちは「好きなおかずはあるかな」「苦手な野菜が入ってないかな」「聞いたことのない料理（初めて食べる料理）はどんなものなのかな」と、入れ替わり立ち代わりサンプルケースを囲んで会話を弾ませています。やっぱり人気はカレーライス、フルーツポンチ、あげパン、麺類で、そんな献立のときはサンプルケースに顔を近づけて、「ああ早く食べたいっ！」とマスク越しに声に出して待ち遠しさを募らせています。

東本郷小学校では、給食の調理や食器類の洗浄・片づけ等を（株）日本給食に委託しています。民間ならではの know-how や専門性が取り入れられることで、年間188回の給食が安全においしく提供されるとともに、アレルギー対応食や多様な献立も工夫して提供されています。また、柔軟に人員体制を整えてくださるので、1年生や2年生では教室近くまで給食を運搬してもらえており、負担が軽くなるだけでなく、時間もしっかりと確保され、しっかりと食べることができています。

先日の朝会では、子どもたちに、東本郷小の給食は、すべてその日の朝から作られていること、野菜サラダも熱を加えて調理したあとに冷ましてから提供されること、出汁やドレッシング、ルー、納豆のタレまで、みんな手作りであること、地元の肉や野菜、旬の食材を使って常においしくなるように工夫してくださっていることを伝えました。また、（株）日本給食のチーフからは、職員に向けて「食缶が空っぽになって戻ってくると、社員のモチベーションが上がりますので、どうぞ残さずに食べるように声をかけてください！」とのメッセージをいただきました。子どもたちには感謝する気持ちや、運動したり、遊んだり、勉強で頭を使ったりしてお腹を空かせた状態で給食時間を迎える習慣が身につけてきています。徹底されてきた「黙食」のルールはすぐには切り替えられないかもしれませんが、友達と向かい合わせになって「おいしいね」という小さなやりとりが生まれるくらいのルールへと徐々に緩和していけるよう話し合ってみたいと思います。友達とわいわい楽しく食べた給食の思い出、みなさんにもあると思います。一日も早くそんな時間を取り戻してやりたい、わたしが待ち遠しさを募らせているのは「話せる給食」です。

